

農技セ第6516号
平成27年8月14日

各関係機関長 殿
病虫害防除員 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病虫害防除所長
(公印省略)

平成27年度技術情報について

平成27年度技術情報第7号を発表したので送付します。

平成27年度技術情報第7号

平成27年8月14日
徳 島 県

イネいもち病(穂いもち)の発生状況及び防除上の留意点について

県北中部における普通期水稻の巡回調査で、いもち病(穂いもち)の発生が平年に比べて多くなっています。高松地方气象台が8月13日に発表した1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少なくと予想されており、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照は平年並か少ないと予想されています。

特に、これから出穂期を迎える県西部のヒノヒカリ等において、穂いもちの発生が懸念されます。現地においては発生状況の把握に努めるとともに、適切な防除指導をお願いします。

作物名：普通期水稻(9月中旬以降に収穫するヒノヒカリ等)
病虫害名：いもち病(穂いもち)

1. 発生地域 県西部
2. 発生程度 少～中
3. 発生状況

(1) 県北中部におけるいもち病(穂いもち)

8月前半(8月11, 12日)の巡回調査では、発生圃場率が33.3%、発病穂率が0.3%であり、平年(9.5%, 0.0%)に比べて発生がやや多い。

(2) 県西部におけるいもち病(葉いもち)

8月前半(8月12日)の巡回調査では、発生圃場率が45.5%、発病株率が14.5%であった。

(3) 高松地方气象台が8月13日に発表した1か月予報では、平年に比べ晴れの日が少なくと予想されており、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照は平年並か少ないと予想されており、発生助長的な気象条件である。

4. 防除上の留意点

- (1) 周辺に葉いもちの発生が見られる圃場では、農薬の使用基準を確認の上、粒剤の場合は出穂10日前までに、液剤の場合は出穂直前までに薬剤防除を行う。また、出穂後曇雨天が続いた場合は穂揃期にも防除を行う。
- (2) 窒素質肥料を過用しない。特に、出穂前後の窒素過多は穂いもちが発生しやすくなるので、穂肥、実肥の施用時期・量に注意する。